



こんな事で悩んでいませんか？

# 実地指導

おこなっています

「このリハビリで効果が  
出るのかな…」  
「利用者様の動きが悪く  
なってるかも…」  
「食事に時間がかかる…」



ご相談下さい！

支援センター内で協議、依頼内容に応じたリハビリスタッフを派遣いたします。

実際にリハビリスタッフが現地へ行き、利用者様・施設担当者様と面接。担当者様に適切な助言をさせていただきます。

例えば…

- リハビリをやっているけど、だんだん歩行能力がおちてきたみたい
- 膝や腰が痛くて、リハビリがすすまない
- 食事のとき、うまくすくえない、すくいやすいスプーンってあるの？
- 移乗の介助が大変
- 片手での家事動作はどのように指導するの？
- 最近、コミュニケーションがとれなくて困っている
- 食事のとき、むせるようになってきた
- 入浴のとき、介助が大変。どうやって介助したらいいの？ 何か福祉用具は？

…など。

お気軽に  
お電話下さい！  
連絡先は…

前橋地域リハビリテーション広域支援センター

〒371-0847 前橋市大友町 3-26-2

財団法人老年病研究所附属病院内

TEL : 027-253-5165 FAX : 027-252-7575

E-mail : kouikishien@ronenbyo.or.jp

## 実地指導をご存知ですか？

前橋地域リハビリテーション広域支援センターでは、施設等へ出向いて直接指導をさせていただき、『実地指導』を行っています。「名前は聞いたことがあるけど、どんなことをしているのだろう？」「リハビリのこと聞きたいけど・・・、誰に相談したらいいのだろう？」とお困りのことはありませんか？今回は、これまで寄せられた相談のなかから嚥下に関する相談について、具体例を紹介してみたいと思います。

CASE: A 施設より寄せられた相談

「70代男性の利用者様のムセが多い」と施設スタッフの方より相談を頂きました。STが施設へ出向き、摂食場面を直接観察したり、認知症の有無や施設内での様子などをスタッフの方とコミュニケーションをとりながら情報収集し、より良い摂食の方法と一緒に考えさせていただきました。今回の場合は、

- ① 食形態の調整…形態によって飲み込みやすいもの・そうでないものがあるので、どんな形態が合うのかを探る
- ② 食事時の疲労軽減方法…食事量の増加に応じて時間が掛かってしまうので、1回分の食事量を少なくして、1日の食事回数を多くしてみる
- ③ 使用する器具の調整…一口が多くなりすぎないように小さめのスプーンや食器を使用してみる

などを提案させていただきました。

(※但し、嚥下の指導に関しましては、個人差が大きいことや、1回で判断しにくいことも多くございます。個別にお話をさせていただきますので、お困りのときにはご相談いただければと思います。)

このように、個別の相談にも応じています。お困りのことがあれば、是非一度ご相談下さい。